

視察概要

1 視察先

韓国済州道

2 相手方

済州道庁、韓国ユネスコ済州協会及び世界自然遺産

3 視察期間

平成20年7月11日（金）～14日（月）

4 視察者

宍倉清蔵、松戸敏雄、小柳輝信、森茂樹

5 目的

済州道の世界自然遺産への登録過程を含めて、調査し、千葉市の貝塚郡の世界遺産登録への参考にする。

6 日程（別紙）

濟州島世界自然遺産の視察

今回視察地の濟州島は韓国の最南端に位置する火山島であり、地質時代としては、第4紀の初期に海底のホットスポットによって生成された火山島で、全体の面積は1831K㎡の楕円形の島である。

約120万年前に始まった火山活動により形成された島は、中央に標高1950mの漢拏山がそびえており、多くのオルム（寄生火山体）が島全体に点在している。とくに、漢拏山には火山地形による厳しい環境に適応しながら、生活してきた人々に関わる様々な神話や伝説などが伝わっており、島民にとって精神的な支えであると共に安らぎの場でもある。玄武岩溶岩とごく一部の凝灰岩からなる濟州島では火山活動による多様な火山地形が見られる。特に世界自然遺産になった漢拏山を中心に形成された楯状火山体や、日出峰のような小規模の単性火山体、玄武岩溶岩の噴出によって形成された溶岩洞窟などがある。他にも粗面岩ドーム、溶岩の流動で形成された柱状節理、玄武岩や凝灰岩の断崖、火山活動の変化による複合火山体などがあり、火山活動期に形成された鳥類や人類の足跡化石が発見されることもあり、火山活動による地殻の変化や人類進化の過程の一部が見られる所である。

さらに、このようなユニークな火山地形のため、動・植物相も韓国本土では見られない特徴を持つ、漢拏山を中心とする垂直的な植物分布の変化や孤島という環境で形成されたチョウセンシラベの群生地などは、濟州島の生物学的特徴でもある。これらの特徴と世界遺産に登録されたことで、地質学者や生物学の専門家を始め、年間約500万人の観光客が訪れているが、世界遺産となったところは天然保護区域に指定されており、見学出来るには一部である。

以上が濟州島の概要説明です。我々は成田発午前9：45分の大韓航空機で一路濟州空港を目指し、12時半過ぎに到着し、市内へ出て昼食を取りながら、出迎えてくれた韓国ユネスコ濟州協会会長の梁昌憲氏と常任顧問の張永培氏と名誉会長の辺昌運氏と「濟州火山島と溶岩洞窟」が韓国で初めて、世界自然遺産に登録された。それは世界遺産委員会が2007年6月にニュージーランド南島のクライストチャーチで開かれた、第31回総会の席上で決定されたこと、登録に至るまでの道のりは遠く険しいものであったこと、島全体での運動はもとより、国を挙げてのものであったこと等に耳を傾けました。前述の三氏とは三氏が所属する濟州ロータリークラブと私の所属する千葉緑ロータリークラブとが姉妹クラブの関係から、今回の視察では道知事や道庁への根回しをお願いし大変お世話になりましたことを紙面を借りお礼申し上げます。

さて、今回視察目的である世界遺産の漢拏山天然保護区域ですが、漢拏山には厳しい環境に適応しながら生活してきた濟州島の人々の歴史に関わる様々な

神話や伝説が伝わっており、済州人の精神的な支えとなってきた。それゆえ、島民は漢拏山が済州島であると同時に、済州島が漢拏山そのものであると信じてきたそうです。漢拏山体は、約20万から30万年前に始まったストロンボリ式の水噴火から約2700年前の最後の噴火までの過程で形成された楯状火山体の典型例だと言える。漢拏山の中央部の噴火の特性と付近に点在する数多くの寄生火山の火山活動は典型的な火山の地形発達史を示している。

山頂にある火口湖や霊室奇岩の柱状節理、粗面岩ドーム、溶岩大地といったバラエティーに富んだ火山学的特徴を見せており、独特な植物相と調和を成してすばらしい景観を誇る。

又、漢拏山天然保護区域は世界唯一のチョウセンシラベの林としても大変重要な位置を占めていて、面積が603haに達する純粋林を形成していて、これは世界最大規模のチョウセンシラベ林である。

次に、城山日出峰は約12万年から78万年前に海底の深さ数mのところ生成された。日出峰の頂上の標高は182m、火口内の最低高度は98m、卵形をした火口の面積は約2.6K㎡である。外輪の直径は約500mで、北西側を除いて波による浸食で絶壁になっている。

火山活動が止まった後、今も波食作用による浸食が進んでいるが海に接する3面の浸食斜面ではタフコーンの内部構造が見られ、浸食されていない残りの1面には噴火過程で形成された凝灰斜面が残っている。古期火山活動による地形ではあるが、今でも自然のままの形がしっかりと保存されていることから城山日出峰の自然遺産としての保存価値は高いといえる。

次に、拒文岳（コムンオルム）溶岩洞窟系は、済州北東部に分布する溶岩洞窟システムで、これには万丈窟、金寧窟、龍泉洞窟、タンチョムル洞窟、ベンディ窟など済州島の代表的な溶岩洞窟が含まれる。これらの洞窟は全て10万年から30万年前に拒文岳（コムンオルム）から流れ出した溶岩で形成されたと推定されている。この溶岩洞窟系は多様な規模や形態、洞窟生成物などを持つ洞窟の集合体である。つまり、万丈窟と金寧窟は大きな規模や多様な洞窟地形生成物を、ベンディ窟は網状の複雑さを、龍泉洞窟とタンチョムル洞窟は石灰質の二次的洞窟生成物といった特徴をそれぞれ持っている。特に、龍泉洞窟とタンチョムル洞窟は火山作用によってできたものの、炭酸塩成分の多様な洞窟生成物が二次的に形成されていて、世界のどの洞窟とも比較にならない程、希少価値の高い洞窟である。

専門家は洞窟内部の驚異的な美しさと合わせて、自然に関する新たな科学的理解の幅を広げてくれる優れた世界自然遺産として高い評価をしている。

済州道庁を訪ねて、道知事の金泰 氏に向かえられた。

済州島の、世界自然遺産登録に対してのお祝いとして苦勞を慰勞するととも

に、千葉市の貝塚郡を、世界文化遺産登録を目指すための参考にするためにご当地を訪れたこととお話しました。

詳しくは道庁中の、世界自然遺産管理本部の本部庁の呉勝 氏からスライド（ビデオ）を見ながら、説明を受けました。

準備をし登録運動した期間は6ヶ年をついやしたことや国中央の外交部と、文化庁そして地方の済州道が三者が一体となり推進し、その一環として書名、運動を転回し道民57万人中で150万人分の書名を集め熱意を伝えたそうです。日本の世界自然遺産である屋久島や、白神山地や、知床等にも調査団を送り、研究調査をしたとのことです。

今までは日本の富士山の関係者も訪れているようです。

世界自然遺産に登録された済州火山島と溶岩洞窟の視察内容及び成果

遺産地域は「漢拏山天然保護区域」と「城山日出峰」「拒文岳溶岩洞窟系」等で済州島全体の面積の10.1%（187.2K㎡）と共有水面1.2K㎡と合わせて、188.4K㎡に達していて、済州の火山地形はハワイ火山国立公園やロシアのカムチャッカ火山群等、世界有数の遺産地よりも景観や学術的価値に優れ世界最高水準にあるとのこと。この世界遺産を地区別に見ると、季節により色彩と構成が変化する「漢拏山天然保護区域」は、滝や多様な模様の岩石形成物、溶岩が流れて固まった海岸の断崖絶壁、噴火口に湖が形成された頂上部の景観や美的価値が評価されている。

要塞のような姿をした「城山日出峰」は、海上で火山が噴出した特性が一目で理解出来る世界的に重要な場所である。

「拒文岳溶岩洞窟系」については、溶岩活動が起きた後に生成された二次形成物が洞窟の床や天井を装飾し、溶岩壁に壁画を描いたような特有の壮観さを成して、最も印象的と評価をされています。

世界遺産登録は済州島を世界的な観光名所にかえ、映画やテレビドラマの撮影場所やセットの後をテーマパーク等にして、その相乗効果で20%の外国人旅行者が前年より増えて、済州島民も今更ながら、地元でただ当たり前に扱ってきた天然資源が、世界でも貴重な自然遺産であると、驚きと共に見直し機運が起きているとのこと。更に、この様に貴重な大自然の恵みをどのように保護し、生かして、後世に伝えるかを諮問機関で検討しているとのこと。

そこで、千葉市の貝塚遺跡群の世界文化遺産への登録に関してですが、今までの行政主導型で一部の人や団体が純粋に貝塚群を保存、維持する活動では限界があるようで、国を挙げての大きな運動へ盛り上げるには、まず組織作りとして、トップリーダーに著名人を冠して、千葉県、千葉市、議会、学者、研究

者、各種団体、地元経済界、市民の有志等で、文化史、自然史、人類学史等の学術的な文献や資料を集めて、この文化遺産が評価基準を満たし顕著な普遍的価値を有すると認めてもらう中で、永久保存のための方法を講じ、その上に地域おこしや、千葉市の観光施策と、どのように結び付けるかであり、そして署名運動や寄付金集めで会員を募り、更に草の根運動へと拡大し、中央政府と連携を取りながら同時に地域の受け入れ態勢を整えながら、息の長い運動を続けなければならないと教えられたというのが視察後の思いであります。